



Dai 1 NAIKA News

平成 25 年 6 月 3 日

三重大学病院
総合内科、循環器内科
消化器・肝臓内科、腎臓内科
広報誌【第 10 号】

発行 / 三重大学医学部第一内科
〒514-8507 津市江戸橋2-174
TEL 059-231-5015 FAX 059-231-5201
<http://www.medic.mie-u.ac.jp/naika1/index.html>

ごあいさつ

先生方には、平素より大変お世話になっています。心より感謝申し上げます。また、平素は第一内科ニュースをご愛読頂きまして誠にありがとうございます。大学病院におきましても、移転後 1 年以上経過し、外来患者様、入院患者様も順調に増えてきております。その結果、入院までの日数がかかったり、緊急の場合満床でご要望に添えない場合もありました。大変申し訳なく思っています。現在、各科の病床見直し、運営の柔軟性等、改善されてきております。また、昨年秋に診療が開始した総合内科も順調に紹介患者様が增加してきており、それとともに診断が困難な例や多臓器に病変がみられる例などご紹介いただき本当にありがとうございます。第一内科が丸となって診療を担当させていただいております。今後とも内科疾患が中心の病態で特に内科的精査や入院が必要な患者様（例えば不明熱、感染症、原因不明疾患など）をご紹介頂ければ幸いです。多臓器にわたる疾患で入院が必要な患者様にも、各専門領域にひろがっている第 1 内科を中心とする医師が責任を持って対応し担当させていただきます。紹介状には、『総合内科 初診』とお書き頂きますようお願い申し上げます。大学附属病院には総合診療部もありますので、お間違



消化器内科学
准教授
白木 克哉

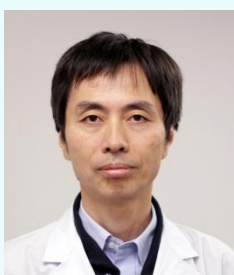
えのないようにお願いいたします。

さて、多数の方が悩まされている生活習慣病といえば、脳卒中、高血圧や糖尿病などがまず頭に浮かぶわけですが、消化器疾患も密接に関連しています。逆流性食道炎、FD、過敏性腸症候群をはじめ、胃、大腸、すい臓癌なども密接に関連していることがわかってきました。また、生活習慣を改善することによりこれらの疾患罹患率が減少するデータもでてきています。このような疾患が蔓延している現状では、医療側の我々としても単一臓器の疾患のみに目を奪われるのではなく、全身の病態に思いをはせ、診療をしていくことが大変重要であることを認識しなければならないと思います。特に、大学病院の医師は専門領域のみに目を奪われがちです。私たちも日々勉強し若い先生方に啓蒙していかなければなりません。特に、開業なさっている先生方にとりましては、当たり前のことでも大学病院の診療では十分でないことも多々あると思います。

日常診療できわめて大切な病診連携におきましても、大切な事は、顔の見える連携だと思います。先生方におきましても研究会や行事に参加の折には、気軽にお声がけを頂ければと思います。えらそうなことを書きましたが、大学病院には若い医師も多く、いたらぬ点も多々あるかと思っています。何か気になることなどがあれば、お気軽にいつでもご連絡いただければと思います。

心電図伝送システム運用開始 ～CCUネットワーク協議会～

本誌【第 8 号】で、谷川高士先生より御報告頂きました「三重県地域医療再生計画」の「心電図伝送システム整備事業」が、2013 年 4 月 1 日より本格的な運用を開始致しました。心電図伝送システムとは、主に津地域の救急車より急性心筋梗塞が疑われる患者の十二誘導心電図を CCU ネットワークセンターに伝送し、ST 上昇型心筋梗塞（STEMI）症例の診断をし、その情報を受け入れ病院に伝達することで速やかにインターベンションの体制を構築していくものです。これにより遠隔地の急性心筋梗塞症例の血流再建までの時間を短縮することができると考えられます。実際の運用に先立ち、まず石倉健先生、仲田智之先生らが中心に「心疾患プロトコル」を立ち上げて頂きました。このプロトコルに従い救命救急士は急性心筋梗塞が疑われる患者を認知するとともに、その患者に十二誘導心電図検査を施行し CCU ネットワークセンターに伝送します。それと並行して、受け入れ病院として永井



集中治療部
副部長
講師
藤岡 正紀

病院、三重中央医療センター、三重大学医学部附属病院の 3 施設より選定します。決定された受け入れ病院には、伝送された心電図の情報を CCU ネットワークセンターより伝達します。

現在、津地域管内の 12 の救急車のうち遠隔地より順に 8 台の救急車に十二誘導心電図伝送装置を設置しました。運用後の実績は 4 月：21 症例のうち STEMI 2 症例、5 月：22 症例のうち STEMI 2 症例でした。運用の種々の問題点につき今後逐次検討改善していく予定です。

また、一般市民への教育活動として 2013 年 5 月 12 日、三重大学講堂三翠ホールにて「市民公開講座」を開催致しました。この模様につきましては「第一内科 Home Page」内の「第一内科 Café」の方で御報告させて頂きました。今後、6 月 15 日（土）に四日市市の「じばさん三重」で、12 月 7 日（土）に伊勢市での開催を予定しております。

なお、本事業は 2014 年 3 月 31 日までの時限的なもので、事業終了後結果を集計分析し今後の事業展開の再構築を計画致しております。何卒、御指導御協力の程よろしくお願い申し上げます。

ワンポイントレクチャー

“えーらす”を探せ！

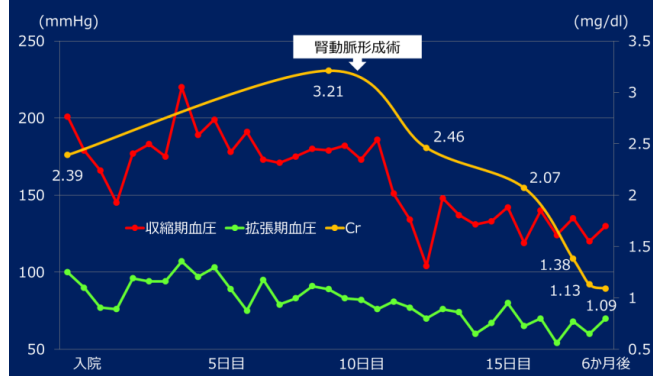
腎血管性高血圧は高血圧患者の 1% に認められるといわれています。本邦の高血圧患者が約 4000 万人いると予測されていることから、腎血管性高血圧を有する患者は決して稀ではありません。その原因としては、中高年に多い粥状動脈硬化 (atherosclerotic renal artery stenosis: ARAS、いわゆる“えーらす”) が最も多く、若年では線維筋性異形成、大動脈炎症候群がみられます。特に“えーらす”は、高齢化、高血圧・糖尿病患者が増加するなかで、その頻度は増えてきており、見逃すことのできない疾患となっています。それは“えーらす”を有していること自体が生命予後悪化の独立した危険因子となることが、国内外から報告されているからです。当院では、入院患者様を中心に積極的にスクリーニングを行っていますが、難治性高血圧や腎機能異常を有する外来患者様に対しても、必ず一度は“えーらす”のチェックが望まれます。スクリーニング手段として、教科書的には造影 CT や腎動脈 MRA の有用性が示されていますが、当院では腎動脈エコーを用いたスクリーニングをメインとしています。造影剤を用いることなく、15 分程度の短時間で評価できるエコーは極めて有効です。「難治性高血圧患者のため、腎動脈エコーをお願いします」などにご紹介頂ければ、速やかに検査をさせていただきます。エコーによる診断後、腎動脈造影・腎動脈形成術を行います。最近では上肢から小径のカテーテルでステント留置が可能となっており、造影剤使用量も 20-30ml 程度と少なく、重大な合併症は皆無です。さらに収縮期血圧で-20mmHg、拡張期血圧で-8mmHg 程度の降圧効果が得られ、症例によっては著明な腎機能の改善も期待できます。“えーらす”が疑われる患者様のご紹介、お待ちしております！



循環器内科 講師
澤井 俊樹

外来は木曜日再診を担当しています。

腎動脈形成術による降圧・腎機能改善効果



Pick Up!

新任医師紹介

今年の 4 月より三重大学医学部附属病院に赴任しました、武内哲史郎と申します。済生会松阪総合病院にて初期研修後に、MMC 内科研修プログラム第一号となり、三重大学医学部附属病院、県立総合医療センター、松阪中央総合病院と勤務しました。研修プログラム後に大学院生となり、尾鷲総合病院にて地域医療を担当させていただいておりました。



循環器内科
大学院生
武内 哲史郎

大学病院に戻ってまいりましたが、見知った先生ばかりで安心しながらも、若い医師不足の波が第一内科にも押し寄せていると痛感いたしました。再度一番下の学年として奮闘し、研修医に少しでも第一内科の魅力を示せればと思います。大学院生としては、私自身の希望もあり、糖尿病を絡めた研究を教授からいただき、少しずつですが前進しつつあります。

未熟ですがこれからも切磋琢磨していきますのでよろしくお願いします。

お知らせ

市民公開講座「あなたのハートは大丈夫？」

日時：2013 年 6 月 15 日 (土)

場所：じばさん三重 (四日市)

心臓マッサージ講習会 9:00～、11:00～、13:00～の 3 回

講演会 10:10～「心臓病を起こさないために」

講演会 14:00～「心筋梗塞とは？」

詳細は第一内科ホームページに掲載されています。

●第一内科外来担当がリニューアルされました。

		月	火	水	木	金
総合	初診	山田 山本	田辺	岡本 石川 荻原	白木 中村	佐藤
	再診	伊藤 山田 増田	藤井 田辺	岡本 荻原	中村 熊谷 谷村	谷川 佐藤
循環器	初診	伊藤 山田 増田	藤井 田辺	岡本 荻原	中村 熊谷 谷村	谷川 佐藤
	再診	谷川、藤本 太田/土肥 PM 外来 藤田	杉浦 (英)	谷口	澤井 松田	山田 藤井 土肥
腎臓	初診	藤本	休診	石川	村田	藤本
	再診	石川	休診	休診	休診	村田
消化器 ・ 肝臓	初診	山本			白木	
	再診	白木 杉本(和)		山本	杉本(和)	

注) 不整脈に対するカテーテルアブレーション治療目的で御紹介いただく場合は、可能な限り火曜日の不整脈外来 (担当: 藤井) に御紹介をよろしくお願い申し上げます。
PM 外来＝ペースメーカー外来 (1,2,3 週のみ)

●第一内科ホームページ

<http://www.medic.mie-u.ac.jp/intmed1/>

●ドクターたちのひとりごとブログ「第一内科 Café」

<http://ameblo.jp/miedailnai/>

●三重大学病院循環器内科、腎臓内科

～患者様をご紹介ください～

1 FAX 新患予約

「診療予約申込書」(三重大学医学部附属病院ホームページ <http://www.hosp.mie-u.ac.jp> の「医療機関の方へ」からダウンロード可) に必要事項を御記入の上、FAX059-231-5541 に送信してください。15 分以内に折り返し FAX で診療予約の回答をさせていただきます。

2 緊急受診、ご相談等

下記、循環器内科、腎臓内科救急ホットラインへ直接お電話下さい。病棟主任が直接対応させていただきます。

循環器内科、腎臓内科救急ホットライン

三重大学病院循環器内科、腎臓内科連絡先 (直通)

内科外来: 059-231-5146 病棟: 059-231-5101

FAX: 059-231-5518 研究棟: 059-231-5015

患者様の紹介、相談にご活用ください。

本機関誌に関するご意見、ご質問は下記メールアドレス、または当科 HP まで。

naika1@clin.medic.mie-u.ac.jp

